

バスク地方

フランス
FRANCE

ビルバオ

バスク自治州の県都。デリオはビルバオの北方に位置する町。

●バルセロナ

●マドリッド

スペイン
SPAIN総会開会に行われた
バスクの踊り24日農家訪問
有機無農薬栽培で直売所、産直、学校給食などに野菜を提供している10日間夕食の準備
をしていたスタッフの方々

日本語通訳ボランティア スロバキアのルビカさん

連帯のコール
が飛び交う

行ってきました！

「食・農・人権」でつながる国際会議 ビア・カンペシーナ！ in スペイン



総会終了後、参加者全員で記念撮影。スタッフも含め約800名の参加でした。

ビア・カンペシーナ第7回国際総会、第5回女性総会、第4回青年総会が、7月16日から22日までスペインのバスク自治州ビスカヤ県デリオで開かれ、農民連から4名の代表団が討論と交流に参加しました。

国際総会の主な日程

7月16日(日) ～17日(月)午前	青年総会
7月17日(月)午後 ～18日(火)	女性総会
7月19日(水) 国際総会	ミスティカ バスク州とヨーロッパ文化と音楽/LVC 歓迎あいさつ/歴史、LVCの役割/国際政治情勢
7月20日(木) 国際総会	ミスティカ アフリカ/大陸ごとの取り組み、LVCの挑戦課題等の報告/4つのワークショップ/青年、女性総会報告/地域会議
7月21日(金) 国際総会	ミスティカ アジア/女性問題シンポジウム/紛争、平和問題シンポジウム/地域会議
7月22日(土) 国際総会	ミスティカ 中東北アフリカ/政治宣言 新ICC メンバー紹介/閉会式典 ミスティカ アメリカ

総会会場の正面にはこぶしを上げる農民と「食糧主権を掲げ、世界を変革する運動を築く」の文字が大きく掲げられ壇上の野菜や果物、種子の装飾、赤や緑の旗が壁を彩っています。総会最終日には国際総会バスク宣言、女性、青年総会宣言と共に「原発ゼロ」特別決議も採択されました。

世界に示した
農民連の活動

多国籍企業優先の農業政策により多くの小農民が土地を奪われたり、種子の独占に苦しめられ環境破壊が進むなど世界の農業情勢は厳しさを増しています。日本でも農産物価格保障廃止、協同組合の解体、種子法改悪など安倍政権が進める農業破壊政策は世界と共通するものです。

農民連が食糧問題、原発問題、TPP反対の運動など農民、消費者、労働組合、女性団体など多様な人々と共闘しながら運動を進めていることは、世界の農民に大きな励ましを示しました。

女性の地位向上を

女性の地位向上の問題でも、男性も含めた運動にしていくな重要さや政治や決定の場への女性参加を重視していることなども話し合われました。

会議の始まりにはミスティカと呼ばれる文化行事があり、会議の途中では元気なコールが何度も飛び交い、エネルギーが何回も霧囲気に包まれます。閉会集会では大会宣言が読み上げられ、参加者の気持ちが一瞬なり会場は最高潮に達しました。

23日にはビルバオの街中をパレードし世界各国の言葉でコールが響き渡りました。24日は有機無農薬栽培農家、ヤギの放牧とチーズなどの加工をしている畜産農家の視察をしました。

食糧主権を広げよう

食糧主権は単に食糧だけの問題ではなく環境や文化、平和の問題など多岐に渡る大きなテーマだということ、世界の人たちと連帯しネットワークを広げることが大切だということを実感した総会になりました。

② ビア・カンペシーナとは

食料主権実現のためのたかう小農民の国際運動組織

1993年ベルギーのモンスで結成、食糧主権を掲げ国連食糧農業機関や国連人権理事会などへ影響を与える存在です。現在79か国186組織が加盟、農民連はWTOの闘いを通じ2005年に加盟しました。

4年に一度開催される総会が最高決定の場で、9つの地域会議があり、日本は東南東アジアに所属しています。民主的運営方法と男女同数、青年30%の参加が原則となっています。



女性総会で 東南東アジアで作ったピンクのスクarfを手

東南東アジアの展示ブース
日本からはうちわ、絵ハガキ、バッジ、紅茶、はし等持っていました。

韓国の参加者と焼酎で交流



23日のパレード 農民連の旗と「怒 福島切り捨て許さない」の旗で参加

農民連フラッシュflash

展望が持てた、専従者・役員研修会

10年ぶりに開かれた全国専従者・役員研修会。8月3、4日に行われ県内から8名、全体で81名が参加しました。岡山大学大学院の小松康信教授が「安倍政治徹底批判! 農業・農村の展望を探る!」記念講演は笑いが絶えず、農民連の歴史と行動綱領、農政の歴史の講演など改めて農民連を学び展望が持てる研修会となりました。



東電会長発言に怒りの抗議

8月8日、参議院会館で東電・政府交渉が行われました。東電の川村隆新会長は就任後「事故を起こした当事者が発電所をきちんと動かしたことが国民に分かれ、原子力にとって大きい」と発言し、この発言を撤回し謝罪することを求めた。また農水省は、玄米の全袋検査の来年以降の実施はまだ未定とし、検査を求める県民要求に背を向ける対応に終始した。



NOTE

青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

若き農業者のつゆやきのーと
せいねんぶ農人

今年の青年部の夏の研修は日本を飛び出して台湾に行ってきました! 農村からの若者の流出、農地をどう守っていくか、などなど、農業の仕方も、作物も、歴史的背景も全然違うけど、同じような問題を抱えている。原発への関心が高く、福島の話に興味深く聞いてくれました。これを機にワールドワイドな連帯を。多謝! by 菊地

